

た箇所は一つ一つの穴を和紙を用いて繕ったり、劣化して赤茶けた革を慎重に剝がし、新しい革で本を包み直した後、再びその上にオリジナルの革をもどすことにより、ある程度のオリジナル性も保つことができ、資料の利用も可能になる。

紛失している部分、例えば花ぎれ（本の背側の天と地の部分にある布片）などは、編み直したりもするが、こうした新たに創作する部分は最小限にとどめている。それは、後世の人たちに誤解を生じさせ

てはならないという配慮からだ。

以上のように、私たちは資料のもつオリジナルティを最大限に尊重し、決して冒険的な無理な処置をせず、しかも利用に耐えられるような本の直し方を常に心掛けている。

形有る物は必ずいつかは消滅するのだから、私たちの仕事はそのいつかを一日でも先に伸ばす手助けになればと思っている。

（国立国会図書館）

おもちゃを直す

松尾 達也

私がボランティアとしておもちゃの修理をはじめ

てからもう十五年が経ってしまいました。もちろん、私一人だけでこんな仕事をしてきた訳ではありません。私と同じように、電機、機械、工作、などにたいへん興味があり、自分の仕事とは関係があたりなかつたり、つまり、趣味としての興味ですが、そんな人たちが約二十人も仲間として入っています。

子供の頃には、今ほどには多くのおもちゃがあった訳ではありませんし、また、あまり裕福ではなかったもので、ほしいおもちゃを買ってもらえたわけでもありませんでした。父はいくつもの手作りのおもちゃを作ってくれました。木材の切れ端や古い箒の柄からおもちゃができていくのを楽しみに見ていた記憶があります。今日では「手作りのおもちゃ」としてものめずらしい展示をしたり、作ってみせているような類のものでした。そんな父には「おまえはおもちゃを壊してばかりいて……」と何

度も叱られました。

私にとって大事な宝物には違いないのですが、その頃は大抵はブリキのゼンマイ式おもちゃだったので、どうしても動くのか、どんな作り方になっているのか、どうしても知りたくて開けてしまったのですが、もともとおりにはならなかった、というわけです。このようなどんな仕組みになっているのか知りたい、という気持ちはその後もずっと続いています。

中学の頃には鉱石ラジオの組み立てを始めていました。同時に生物や化学の実験道具、(試験管、ガラスバーナー、いろいろな化学薬品、フラスコ、ビーカー、……といったもの)も揃えていました。その後のコースは、化学に関係ある道を歩いて今日に至っていますが、趣味としての機械、電気は、とうとうおもちゃの病院になってしまいました。今は、子供の頃に壊した幾つものおもちゃを思い出しながらその入れ合わせに修理をしている、というわけだ

す。

昭和五二年四月に開設された目黒区の「おもちゃの病院」（目黒区消費者センター内）にボランティアとして参加しました。また、中野区にある「おもちゃ美術館」（中野区新井二丁目、芸術教育研究所）でも四年前から同じくボランティアとしておもちゃの病院のお手伝いをさせていただいています。そのほか、各地の行政機関や民間団体などのお手伝いに出張もします。忙しいときには一日で三十個以上もの修理をこなさなければならないときもあり、目の回る忙しさです。これまでに手がけたおもちゃの数は全体でほぼ二万件にもなっています。

子供たちにとってはおもちゃは自分の宝物です。母親、まわりの大人たちが思っている何倍もの大事さをもったものだと思います。壊れてうまく動かないことはどんなに残念なことかしれません。はじめで持ってきたこわれたおもちゃをおそろおそろだして見たところ、幸いにも、とても簡単な故障だった



のであつという間に修理がすみ、元どおり動きだしたのを見て笑顔がこぼれる。といったときに感じる満足感は何事にも勝るものです。自分自身にとっても気持ちのいいものです。

私にとっては、どうも、まともに動く機械類はそ

れほど興味を引きません。むしろ、こわれてまとも
に動かないもののほうが興味をそそるのです。どこ
がどうなつて調子が悪いのか、どうすれば元どおり
になるのか、それには何をどうすればいいのか、ど
んな部品が必要か、分解するのはどうするか、とい
うようなことを考えるのはいい頭の体操になりま
す。おもちゃの修理も全くこれと同じです。時計、
ラジオ、テレビ、洗濯機、アイロン、ミシン、など
の家庭用電気製品などのほうが本当は修理をしたい
のですが、今はそんなことをさせてくれる場所は見
つかりません。それに、こうした品物はメーカーの
製造責任や事故責任も関係してくるのでなかなか複
雑な要素を含んでいます。おもちゃでは、これに比
べると構造も比較的簡単ですし、修理もしやすいも
のがほとんどですから扱いやすいかもしれません。
いま扱っているおもちゃは小学生までの子供を対
象にしたおもちゃがほとんどですが、それでもなか
なか複雑な構造のおもちゃがあります。子供たちに

大変な人気のあるテレビゲームは、見たところはお
もちゃとしてのすがたですが、その中身は全く大き
いコンピュータと同じ構造をしているばかりか、
使つてあるパーツも精密な繊細なものなのです。I
CやLSIといったハイテク製品をふんだんに使つ
た回路が組み込まれたおもちゃがどんどん増えてき
ているのです。勿論、日本製ばかりではありません。
ん。アメリカ、イギリス、フランス、香港、中国、
韓国、などたいへん国際色豊かです。これは、日本
国内で売られているものも勿論あるのですが、海外
旅行のおみやげとして持ち帰られたものが多くなつ
てきています。

十五年まえにおもちゃの病院を始めた頃からしば
らくは、ラジオコントロールの自動車の来ない日は
なかつたくらいいろいろの種類のラジオン車が持ち
込まれました。そのころは、まだまだ、技術的にも
未熟だったので、修理の方法もうまく理解していな
いまま手探りでやっていました。それから、みんな

で勉強会を何回か開いて修理技術を確立しました。必要な機械、道具も自作しました。どこにも市販していないもので、いまでも重宝しています。しかし、最近では、テレビゲームの人氣に押されてか、うんとその数が減ってしまいました。

故障原因の中で一番簡単なのは、電池ぎれです。古い弱った電池と入れ換えて動かないと持ち込まれたものです。新しい電池に入れ換えればすぐに動き出します。もし、動かなくなったらず、電池を取り替えてみてください。家庭ではその頃は簡単に電池のあるないを測れるものが手に入らなかったのです。いまでは、やすいものなら二〇〇〜三〇〇円で電気店で手にはいります。いろんな電池が測れる電池テスターは三〇〇円前後の値段で市販されています。でも、いまでも電池切れが故障として持ち込まれるのは少ないとはいえません。できれば、電池の測れるものを一つ手元にもっているとたいへん重宝します。



▶ おもちゃの病院で診察中の筆者

おもちゃを使わないときには電池はおもちゃから出しておいください。ご承知のように電池は古くなる中から液が漏れだして部品をぼろぼろに腐らせてしまいます。電池をいれたまましまい込んで、ある時だしてみたら中がぼろぼろになっていた、という故障も結構あります。

こわれたおもちゃの部品は捨てないでとっておいて、修理の時には一緒に持ってきてください。部品が無いために形や、作用が分からなくて修理にとても手間取ったり、修理が出来ないことがあります。

なるべく、自分では修理をしない方がいいとおもいます。分解はしたがどうにもならなくて、そのまま持つてこられるのはいいのですが元の状態が分からなくて、大きなパズルとのとっくみあいになってしまいます。時間を掛ければ出来ないわけではありませんが、掛ける労力は甚大です。

ぬいぐるみの動物達の中には中につめものだけが入っていて破けたり、穴が空いていたりするものが

ありますが、これは、おかあさんに修理をお願いしたいのです。ちょっとした針仕事くらいはご家庭で済ませてください。

最近のおもちゃはその素材がプラスチックで出来ているものが多いので、見た目はきれいですが、こわれるとなかなかもとのようには修理できない場合が多いのです。大きく壊れたときや大事な部分の欠けたものなどは元のように出来ない場合があります。そのような場合は寿命と考えていただいた方がいいとおもいます。

昨年の五月で三十七年間勤めた会社を定年退職いたしました。十五年間毎週日曜日のボランティア活動としてつづけてきたおもちゃの病院勤めは、今後も体力の続く限り辞めないでいたいと思っています。子供の頃のお医者さんごっここの夢が実現したのですからこんなすばらしい事はないのではないのでしょうか。

(おもちゃの病院医師)